

金沢大学附属高等学校

KANAZAWA UNIVERSITY SENIOR HIGH SCHOOL

学校案内



金大附属高校ってどんな学校？

校風 は「自主自律」 伝統が育んだ附高のDNA

自主自律、独立自治の精神を育む本校の教育姿勢は、建学以来全く揺るぎません。運動会、開校記念祭の企画・運営もすべて生徒によって行われます。また、夏服の自由化がされています。これは、先生と生徒の強い信頼関係が学校の根底にあるということにほかなりません。生徒一人一人が自分で考え、自分を正しく律し、自分で判断して、自分から行動できるようになる。勉強、行事をはじめとする学校生活すべてにおいて自発的、積極的に行動する。この自主自律こそが、綿々と受け継がれてきた附属高校のDNAなのです。

生徒会執行部



運動会・応援団



開校記念祭・歌舞伎



夏服自由化

平成7年から本校では夏服が自由化されています。生徒からの強い要望と長期にわたる改定運動の結果、学校は「夏服は生徒自らの判断で、学校生活にふさわしい服装の着用を認める」ことになったのです。

人類史の中で、服装は極めて文化性の深いものであり、人格表現としても重要です。TPOを考慮して服装を決める力を養うことは若い時代に学ぶべきことだと考えた結果です。



卒業生の声



東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 日本学術振興会 特別研究員-PD

桶葺 興資 (平成12年卒)

東京に憧れて上京し12年。大学院に進学し、人工光合成の研究にて博士取得後、研究者として鍛錬の日々です。野球選手やサッカー選手と同じ、プロの自覚を持って臨む世界です。七転び八起きならぬ、百転び百一起ぎの実験や学会発表における討論は心地よい緊張感があります。無論、そんな自分を支えてくれたのは、東京でも苦楽を共にした高校の友人や卒業後も暖かく見守ってくださる尊敬すべき先生方です。一学年の人数が120人程度ですから仲の良さも必然的に密になるのでしょう。東京では地元学生が集う寮にて6年間、同じ釜の飯を食う仲間ができて今でも金沢弁です。その後も、共に上京した友人とルームシェアをし、青春18切符で東京から金沢まで12時間かけて帰省したりと高校時代の友人と共有してきた数々の思い出は、僕の大切な財産です。彼らは一生の友人になるんだろうなと実感しております。これから、米国ボストンにて研究に磨きをかけてきます！

スーパーグローバルハイスクール

SGH

確かな学力と、広く深い教養 グローバル人材の育成

附属高校では、生涯を見すえた教育活動が行われています。生徒たちの知的好奇心を満足させること間違いなし。本校で得たものは将来にわたって貴重な財産となることでしょう。

個性派ぞろいの先生は、オリジナルの教材やプリントを使って授業を行っています。練りに練られた授業には過去の経験が凝縮されています。しっかりと授業を聞くことで、確かな学力が身に付きます。ときには、教科書を飛び出し、生徒の知的好奇心を刺激し、自ら探究する能力と態度を育てる。附属高校の教育が目指しているものです。



金沢大留学生との「グローバルディスカッション」

教科授業

本校は、平成26年度、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」に指定されました。社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、課題解決能力などの国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成します。そのために本校が努力を注いでいるのが創造的な総合学習の充実です。知識・技能の伝達という一方通行になりがちな教科指導から、生徒自身が考え、調べ、発表して自己の世界を拡大してゆく教育に真剣に取り組んでいます。一年生の総合学習では「地域課題研究」に取り組んだり、台湾師範大や同附属高級中学との交流研究を実施しています。



地域課題研究（能登現地学習）

総合的な学習の時間



台湾師範大学生と台北現地調査（台湾現地学習）



台湾師範大附属高級中学生とのラウンドテーブル・ディスカッション

復興庁統括官付参事官付参事官補佐

谷口 逸生（平成13年卒）



附属高校を卒業して、もはや15年近く。高校時代の思い出は、時間の経過とともに、どうしても薄れていくことは致し方ない。それでも、忘れられない思い出は、確かにある。

私が卒業する際の、恩師からの一言がその一つだ。バドミントン部に所属していた私に、恩師は、「大学に行ったらバドミントンを真剣にやってみてはどうか」と言った。その時の私には思いもよらぬ一言だった。

私はその言葉を信じてみようとして体育会に入った。限界まで真剣に目標に立ち向かったからこそ、望む結果が出ない苦しみを知った。そして、その苦しさを乗り越えた先に得た勝利の喜びを知った。

附属高校生は、どうしたって優等生である。自らの限界を思い知るような経験に出会うことは少ないかもしれない。でも社会に出れば、ずっと優等生ではいられない。今の復興の仕事もそうだ。震災から4年。被災地に厳しいことも言わざるを得ない時期に来ている。復興を遅らせるのかと、恨まれながら仕事をしている。思うようにいかないことの方が多いかもしれないが、自分自身でその状況を打開しなければならない。

恩師の一つの言葉が今の自分につながっている。附属高校は、勉強だけの学校ではない。あなたの人生を変える人物に出会えるに違いない。

進路 夢をあきらめない なりたい自分になる

本校は、将来への希望を持ち、高い理想を掲げて、その実現に全力を尽くす生活をするよう生徒に求めています。その夢の実現へ向けて本校では様々な学習環境を整えています。

教科ごとに分かれた研究室には、質問する生徒が後を絶ちません。個別の添削指導など、きめ細かな指導ができるのも小規模校の大きな利点です。

生徒が質問や相談で各研究室を訪れる時、話が弾み、勉強のことから思わぬ面白い話に発展して、時の過ぎるのを忘れてしまうこともしばしばです。この教師と生徒と濃密な日常が本校の大切な伝統です。

研究室



本校では、様々なジャンルで活躍している著名な方を講師に招き「特別合同授業」を年に2回実施しています。

また、社会の最先端で活躍している本校の卒業生を数名招き「同窓生による特別授業」も実施しています。本校では多くの卒業生が日本のみならず国際舞台の第一線で活躍しています。生徒はこれらの刺激にも触発されながら、自らの夢や希望を育ててゆくのです。

特別合同授業

田中隆治氏による
「青いバラ」開発
に関する講演



同窓生による特別授業

同窓生松本尚氏による
救急医療ドクターヘリの講演



特別合同授業の主な講師の方々

東山 魁夷 (美術)	山本 七平 (文化史)
浅利 慶太 (文化)	平山 郁夫 (美術)
藤原 正彦 (数学)	高野 悦子 (文化)
王 效賢 (政治)	鶴見 和子 (社会学)
大江健三郎 (文学)	宮台 真司 (社会学)
上野千鶴子 (女性学)	林 望 (書誌学)
橋本 五郎 (政治)	金田一春彦 (文学)
林 真理子 (文学)	山折 哲雄 (宗教学)
浅井 祥仁 (物理学)	(敬称略)

京都大学こころの未来研究センター 特定助教

畑中 千紘 (平成10年卒)



附属高校の魅力は何よりもまず、先生方が自由であることです。「生徒でなく先生が?!」と思われるかもしれませんが、この学校ではまず先生方が熱意と個性をむき出しにし、担当教科のおもしろさに魅了されているのです。高校生活を思い返してみると、私たち生徒は、心底楽しそうに話される授業に驚き、等身大でぶつかってくださる姿勢に圧倒されながら、苦手教科であっても「そんなにおもしろいのか…?」と、なぜか投げ出さずに取り組んでしまっていたように思います。そして、教えてもらうというよりも、むしろ釣られるように勉強や部活に夢中になって、私たちの個性もいつのまにか開放されていったのでしょうか。同級生たちは今、それぞれの個性を生かして各方面で活躍しています。当時はなかなか気付くことができませんでしたが、先日17年ぶりに母校を訪問し、先生方が未熟な個性の塊だった私たちをそのまま受け容れ、認めてくださっていたことがしみじみと感じられました。臨床心理学では、人は適切な環境にあれば自ら成長する力をもっていると考えます。附属高校での経験は、確かに心理学研究という私の今の仕事のベースになってくれているように思います。

金大附属高校の年間行事

4

●入学式



●遠足

5

●1学期中間考査



6

●県高校総体・総文

●運動会



7

●1学期末考査

●スポーツ大会(夏)



●歌の祭典



●夏季休暇

●夏季補講

●国内現地学習
(1年生)



8

●夏季補講



9

●2学期始業式

●教育実習

●県新人大会(インドア)

10

●2学期中間考査

●スポーツ大会(秋)



●開校記念祭



11

●県新人戦
(インドア)



12

●2学期末考査

●冬期休暇

1

●3学期始業式



2

●如月祭

3

●3学期末考査

●卒業式



●台湾現地学習(1年生)



●春季休暇



部 活 動

ほとんどの生徒が部活動に参加し、活動も盛んです。小規模校ですが運動部の数は大規模校と変わらないほど揃っており、それぞれが勝利を目指して練習に励んでいます。運動部では団体競技でベスト8や16に入るのも珍しいことではありません。個人競技では北信越大会や全国大会に出場することもあります。文化部では囲碁部、将棋部が全国大会の常連です。

運動部

- 野球部
- サッカー部
- 剣道部（男女）
- 卓球部（男女）
- 陸上部（男女）
- ハンドボール部
- 硬式テニス部（男女）
- バドミントン部（男女）
- バスケットボール部（男女）
- バレーボール部（男女）

文化部

- 吹奏楽部
- 科学部
- 茶道部
- 将棋部
- 囲碁部
- 演劇部
- クイズ同好会
- 美術同好会



校 舎 施 設

平成19年に増改築により校舎が新しくなりました。明るく広い教室、ゆとりある図書館、充実したコンピュータールームなど、最新の設備で快適な学校生活を送ることが出来ます。ソーラー発電などを備え環境にも配慮しています。平成22年には創立六十周年記念館「有朋館」が完成して、生活環境が一段と向上しました。



学 校 住 所 お よ び 案 内 地 図



交通手段：J R 金沢駅から北鉄バス、香林坊経由金大附属学校前・自衛隊前行き

「学校説明会」について

本校は、生徒募集に関する広報活動の一環として、入学を希望する中学生とその保護者の皆様を対象に学校説明会を毎年8月下旬に開催しております。当日は、授業参観、学校生活の説明、生徒による学校紹介などをいたします。その概要については、毎年6月中旬に県内各中学校に書面で連絡するとともに本校ホームページにも掲載いたしております。多くの中学生およびその保護者の皆様のご参加をお待ちしております。



金沢大学附属高等学校

〒921-8105 石川県金沢市平和町1-1-15
 TEL.076-226-2154 FAX.076-226-2150
 Email:fuzokuhs@kfshs.kanazawa-u.ac.jp
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/kfshs/>